

障々協
広報紙

**山口県障害福祉
サービス協議会通信**



発行：山口県障害福祉サービス協議会 広報委員会 〒753-0072 山口市大手町9番6号
電話：083-924-2799 FAX：083-924-2798 メール：syougai@yg-you-i-net.or.jp

【令和元年度 障サ協活動テーマ】
障害者福祉をどう地域社会にアピールし、
我が事として定着させるか。



和やかな雰囲気で行われた座談会の様子（H31.3.8）
 参加者：指定障害者支援施設ゆうあい 生活支援員 神徳貴夫
 セルプときわ 生活支援員 中村亮太
 柳井まわり園 生活支援員 平井奏美
 なごみの里 生活支援員 宮地秀子

進行：山口県障害福祉サービス協議会 広報委員長 山田正寛
※参加者の所属・職名は、座談会当時のものです。敬称略。

新企画①・座談会

新人職員が語る支援現場への思い

新人職員の本音に迫る

今回からスタートする座談会では、テーマに沿った皆様にお集まりいただき、熱い思いを語っていただきます。今回のテーマは、「新人職員の支援現場への思い」とし、入職1～3年目の職員に障害者福祉に携わるきつかけ、支援現場での喜び、課題、今後の目標等、新人職員としての思いをお話いただきました。

第1回 障害者福祉に 携わるきっかけ

山田 早速、質問させていた
だきたいと思います。障害者
福祉に携わろうと思ったたきつ
かけを教えてください。

神徳 僕はもともと広島島の工
場で働いていたんですけど、
実家の山口にいろおばあちゃ

んが認知症で、たまに実家に帰つて来る時にブルムヘルパーさんが介護している姿を見て「すぐく人の為になる仕事だなあ」と思ったんです。僕は工場の生産の仕事だったので「ちゃんと人の役に立っているのかなあ」と実感できていなかったんで、そのことがきっかけで福祉の仕事に携わろうと思いました。

山田　今は実感を持てますか。
神徳　本当は少しだけですけれど。普段笑わない人が笑つてくれると、自分が少しでも役に立てるのかなと思ひます。
山田　そうですね。笑つてもらえると嬉しいですね。
神徳　そうですね。こっちが元気になつたりするので。

山田 平井さんは、障害者福祉に携わるきつかけは何だったのですか。

平井 きつかけは 中学校・高校と障害者施設にボランティアに行っていて、高校の時は地域に関わるボランティアをしていたことです。その時に障害のある後輩の子が周りの大人達に厳しく指導されているのを見て、私がこれまでのボランティアの経験を生かして穏やかに話してみると、その後輩の子がすぐに話を聞いてくれるようになりました。そういう経験があつて自分にも何かできないかと福祉の仕事を探していたら、今の施設長に「うちの施設に来てみな



ゆうあい
神徳貴夫さん

いか」と言ってもらい、障害者福祉の仕事に就きました。

山田 富地さんは、どうですか。

富地 私は、学生時代に短大で幼児教育学科だったので、施設に実習に行っていました。しかし、卒業後に専門職に就くことはなく、百貨店の化粧品売場で正社員として10年仕事をし、子育てを10年して、それからパートで10年ほど働きました。その後、家庭の事

情でフルタイムの正社員として働きたいと思うようになった時に、私の知り合いでなごみの里の支援員として働いていた方が、私が幼稚園教諭と保育士の資格を持っていたので、「来てみないか」と誘ってくださったので、まずは見学してみたいんです。私の学生時代の実習での障害者福祉施設は、暗くて、汚くて、臭くて、厳しくて……。あまり良いイメージがなかったです。しかし、なごみの里に行った時、全然臭くないし、明るいし、利用者さんも支援員さんも笑っているんです。それから、利用者さんも私に「ねえ、見学？」という気分で話して

今号から紙面をリニューアル

本会では、障サ協事業の
広報・啓発をより効果的に
実施していくため、昨年度
より広報委員会を設置し、
広報紙「障サ協通信」のリ
ニューアルについて協議を
進めてまいりました。

今後は、本会の活動報告にとどまらず、会員事業所（施設）の取組や、職員のリアルな声をお届けし、障害福祉サービス事業所の現状をお伝えしていきます。

また、社会から見た障害者福祉の印象を支援者であ

る私たちが理解するため、事業所（施設）の出入業者の方に障害福祉サービス事業所の印象をインタビューした記事を掲載します。

これからの「障サ協通信」
にどうぞご期待ください。
皆様からのご感想もお待ち
しております。



かけてくれて、普通に関わることができたので、施設の雰囲気の中にスッと入れる感じでした。そこで職員さんと理事長さんと話をして良い感じだなという印象を持ったからです。

山田 イメージがすごく変わったと言われましたが、当初は、どんなイメージだったのですか。

宮地 和夫先生時代に美術室に行った施設では、職員の手導が時に学生の私も怖いなど思う感じがあつたんです。今は、利用者さんが中心で、利用者さんが笑うとか、より良くなるように支援員がサポートする感じでしょうかとはすごく違つたて思いました。



なごみの里
宮地秀子さん

山田 福祉に対するイメージについて、皆さんにお聞きしたいのですが、もともと福祉に対するイメージと、今のイメージを教えてください。

平井 もともと私も大学で幼児教育を専攻していた、今の柳井ひまわり園に実習に行った時に、楽しそうだなという思いしかありませんでした。

2019年（令和元年）6月25日発行
ただ、一日の流れを何気なく通してしまっているのになって感じがありました。今は、利用者さん

に自分を「気分転換の道具」「じゃないですけど、そんな感じに使ってもらおうかな」というか……一日の流れを大切にしながらも元氣になってもらえるような雰囲気を作っていきたいと思います。羽目をはずすではないけれど、利用者さんがリフレッシュできる時間を作っていきたいです。今は、本当に明るくて利用者さんも楽しそうな感じです。



柳井ひまわり園
平井奏美さん

神徳 僕が福祉の仕事をやってみようと思った時と同じ工場で働いている同僚に福祉現場について聞いてみたんです。その同僚は、もともと福祉の仕事をしていだけれど、腰を痛めてしまい、仕事を辞めて工場に来ていました。話を聞くと一福祉の現場はキツイと言っていましたね。だから、楽しいとは思うけれど、そういうところなのかなと思っていました。そして仕事を辞めた後に専門学校へ通ったんですけど、実習やボランティアに行ったときに、自分が思っていたより明るいというか楽しい感じで、職員さん

と利用者さんがしつかりと関わっていました。その様子を見て、確かに職員の方はめっちゃ動いているので、大変そうだなと思ったけれど、すごくやりがいがあるなと思いました。キツイとか、大変というイメージは、やはり排泄介助のように今まで自分は経験したことがないことで、実際に他人の排泄介助もできるのかと聞かれると「うーん」と思いましたが、自分で福祉の仕事をやりたいと決めていたので、頑張つてやってみようかと思いました。

山田 仕事を辞めて専門学校に行かれていたんですね。すごいですね。

神徳 介護福祉士の資格を取得するために専門学校に行きました。その時に、就職するのは、老人ホームか障害者施設とで迷っていて、ボランティアや見学に行って障害者施設で働いてみようと思えました。

山田 高齢者施設と障害者施設で、どうして障害者施設を選んだんですか

神徳 ホムニティアに行つた時に、障害者施設の方が自分も含んでいるとフーリング的なものを感じたからです。

山田 そうなんです。では、中村さんが障害者福祉に携わろうとしたきっかけは何かありましたか
中村 2年位前におばあ

ちゃんが病気になるって、家で介護ではないけれど付き添っていました。それで、こういう仕事があるんだって初めて知って障害者施設から誘いが来たので「やってみようか」という感じでした。

山田 どうして高齢者関係の仕事に就こうと思わなかったのですか。

セルプときわ
中村亮太さん

中村　とりあえず誰かの
手助けが必要な人たちが
いるんじゃないかという
考えだったので、特には
思わなかったです。

(づづ)

【座談会の振り返り】

附言者福祉に関心をもち、かけは、素直なボランティア、家族の介護などの実体験が機会となつていました。また、実際に施設に入ることで、思っていたマイナスイメージと全然違い、前向きなイメージを持たれていました。事業所・施設の人材確保に向けては、実習生やボランティアの積極的な受入れ、そして、事業所・施設の取組をPRしていくことがとても重要なことだと改めて認識することができた座談会でした。

研修報告

障害児の福祉・教育・医療に必要な連携を考える

平成31年2月19日(火)
山口県社会福祉会館にて、
材育成のシステム作りが必
要であると感じました。

山口県立大学社会福祉学部の藤田久美教授を講師としてお招きし、「障害児の福祉・教育・医療に必要な連携を考える」をテーマに講義・演習を行っていただきました。



山口県立大学
藤田久美教授

講義では、藤田先生が研究された「早期支援サービス」の質の向上を目指した障害児支援コンピテンシーモデルの開発」をもとに、障害児支援の3つの柱である発達支援・家族支援・地域支援に携わる支援者の専門性についてお話しいただきました。関心意欲態度、知識・技術、実践と省察など多くの項目で経験年数に關連が見られることが多く、支援者は日々の実践と振り返りを通して成長していく場合が多いということがわかりました。このような研究を活かして支援者が自分の専門性・役割に少しでも早く自信が持てるような人



日頃からの連携を
意識した演習の様子

演習では、圏域に分かれてグループワークを行い、地域を基盤とした障害児支援に必要な連携について考えました。保育園の保育士、障害児通所支援事業所職員、相談支援専門員、市役所職員など多職種により様々な意見が出されました。保育園・幼稚園と児童発達支援事業所、学校と放課後等デイサービスなど、同じ一人の児童に関わるにもあまり上手く連携が取れていない現状が見えてきました。このような多職種で議論や情報の共有ができる機会が増えることで、地域におけるより良い連携に繋がっている、という良いと思います。



新企画②・インタビュー

社会から見た障害福祉サービス事業所

出入業者の方の声から考える

新企画の2つ目は、障害福祉サービス事業所の出入業者の方に障害福祉サービス事業所の印象についてお聞きした内容をまとめました。

本会の活動テーマである「障害福祉をより地域社会にアピールし、我が事として定着させるか」を考えるために、社会の障害者福祉に対する意識を探ります。

今回、お話しをお聞きしたのは、柳井ひまわり園で清掃作業に従事されている柳井広域シルバー人材センター所属の太田さんです。聞き手は、本会広報委員の稲葉です。

Q 障害福祉サービス事業所に初めて来られた時の第一印象は、いかがでしたか。

A 清掃ということで来たんですが、職員の仕事を見ると、私も将来は親を面倒見にやいかんから、障害だけじゃなくて、親も介護が必要になるだろうし、動けなくなるだろうから、ある程度参考になるかなあと。

Q 介護ということですか。

A 介護に関しては、すごく参考になるんですが、職員の仕事ぶりを見ると、私みたいにサラリーマンで機械的なものを相手にしてるのから、福祉現場に入ってみると、これは並大抵の仕事じゃないな笑。これは大変だな笑。よくやってもらえるなど。職員の方がね、本当に細かく、気を付けて利用者を支援されておられるんですよ。そういうのを

上に、無茶苦茶大変じゃないと。そういうのは感じましたね。だから、色々参考にはなってますよね。だけど大変だな、と。

Q それでは、この施設に来る前とここに来てからの印象の違いはどうでしょう。か？最初ここにきて、3年目になります。

A まあ、慣れちゃったというかな。最初はやっぱり、匂い、施設のね、これが一番ちよつと気になったんですよ。まあそれはもう慣れにやしようがない、このままだな。というのがあ

Q 逆になんか嫌いなところとか、設備的に消臭をするとか。私は清掃をしとるもんだから、消臭をするとか。そういうものを、もうちよつと手を入れてもいいんかな、とか。

Q なるほど。施設の生活の中の匂いってというのが、やっぱりトイレとか…

A 気になりますね笑

Q それは、初めて来た方も絶対気になりますよね。

A 掃除しとつてもね。逆に設備関係で見ると、やっぱり色々壊していく人がいるもんで、触らんようにしたり、水道を止めとつたりとかいろいろあるんですが、その感覚が、私もはすぐには分からんわけですよ。何でここ水道が出ないんだ、とかね笑だから、掃除から見ると、全部きつちりしとらんじゃん、と。

Q 当たり前のように蛇口が付いてちよつと…

A だじど水出ないじゃんってね。というのがあるもんだから、その辺はどうしたもんなのかな、と。臨機応変にやらないかんけど、そのままにときやあ施設に入ってる人が壊したり、色んなことをするもんで、ビシビシにしたり笑。大変なんだなど。その理由が分かるまでは「いやいや、何でだ」と、そういう気がしてきますよね。

Q そうですよ。トイレなのにスリッパがないとか洗面所なのに蛇口がないとか。

A 実際に水を止めとる理由と、こつちの使う理由が違つことが多くもんだから、なかなかな。ちよつと理由が分かるまで、どうなんかなというのがありますよね。

Q じゃあ、最初に来たときは全く分からなかったですよ。

A だからまあ、様子見るまでは、慣れるまではしょうがないなという恰好で見よつたけど、慣れてくると少し、ああ、こういう理由なんだというのは分かってくるんだけど。だから、言われるみたいにそれで慣れちゃうと、ちよつとまづいのかなという気もせんでもないですよ。

Q それはそうですね。

Q それでは、これまでの経験を通して、どのような施設・事業所であれば、もつと出入りしやすいと思いますか。

A 仕事で入ったことを考えると、じつとしてない利用者の方とかおるじゃないですか。今は部屋にブザーを付けとつたりしてくれとるから、バツと感じやすくなつてますけど。最初は分からずに、急に後ろからきてつねられたとかね。ありますよ、何回かはたかれたとかね。それと、掃除用具を持ち歩いてますけど、夏場で水分不足ということで、ジュースや飲み物をかごの下に入れて持ち歩いてたことがあるんですが、それを飲まれちゃったとかね。あ、ないじゃんって笑。

Q よう分かりますよね、そういうの。

A 最初そういうこと、個人的な情報は意外と言ってもらえないから。私もは掃除だけだから、そういうことがあつて初めて、「お気を付けにやいかんのかいな」と笑。最初の時に、利用者について注意することなんかはね、言つていたただければ、もつちよつとやりやすいんかなあという気もせんでもないですよ。

Q 逆に言うたら、ちよつと利用者全体を気にしながら掃除の作業をしているよ

うなどころありますか。

A もうあんまりです。

Q その気苦労がありますね。普通に掃除にだけ専念しとるわけにはいかんということですよ。利用者に気を付けながらやらんやいけんといつてますよね。

A 最初はありましたね。いつくるかな、いつくるかなって笑だけその辺が、要領が分かつてきたもんで。

Q 逆に、日頃挨拶してくるような利用者の方というのがありますか？

A いますよ。数人、挨拶される方はいますし、入つてくると必ず、顔を見ると「お昼、何食べた？」って話しかけてくる人も。

Q 施設に入るようになって、利用者の方の特徴とかつていうのを自分で覚えながら、この人は大丈夫とかこの人はちよつと危ないよとか…

A そうそう。それもあるし、来てすぐ鍵をもらいに行くと、「おっちゃん来たでー！」っていう人もおるしね。いつも職員の方で言つてくれる人もおるし。向こうも覚えてくれとるっていうかね。

Q そうなんですね。利用者、職員との関係もつくりながら、業務に努められているんですね。本日は、ありがとうございます。

令和元年度 事業計画・収支予算

事業方針

昨年度（平成30年度）の障害福祉サービス等報酬改定では、重度化・高齢化を踏まえた地域移行・地域生活の支援、医療的ケア児への対応、精神障害者の地域移行の推進、就労系のサービスにおける工賃・賃金の向上及び一般就労への移行促進、障害福祉サービスの持続可能性の確保など、障害福祉サービス事業における様々な課題が示された。支援現場では、改定に込められた意図を読み取り、適切な対応が求められている。

こうした中、私たちは障害種別を問わぬ県内すべての障害児・者のより豊かな人生と生活のために、また地域社会に障害者福祉を我が事として定着させ、地域共生社会の実現に向け、より積極的な取組を進める必要がある。

今年度も以上の問題意識を持って、以下の各事業に取り組み、組織の強化拡大を図り、支援の質の向上、本会事業の広報・地域における障害者福祉の定着に努力する。

事業計画

- 1 総会・理事会等会議
- (1) 総 会 (2) 理事会 (3) 監 査
(4) 会長・副会長会議
- 2 委員会
- (1) 組織運営委員会 (2) 研修委員会
(3) 広報委員会
- 3 部 会
- (1) 介護部会 (2) 就労部会 (3) 自立訓練部会
(4) 居住部会 (5) 相談支援部会 (6) 児童部会
- 4 研修事業
- (1) 社会の常識、福祉の非常識をテーマとした研修会
(2) 児童期からの切れ目のない、ライスステージに
合わせた連携・支援をテーマとした研修会
(3) 精神障害を持った方の支援をテーマとした研修会
(4) 地域とのかかわりをテーマとした研修会

5 要望活動

- (1) 山口県総合社会福祉大会種別部会報告
- (2) 自由民主党山口県支部連合会
- (3) 公明党山口県本部「企業・団体等との政策懇談会」
- (4) 市長会・町村会要望
- (5) 山口県知事要望
- (6) 国会議員との懇談会（山口県経営協主催）への出席

6 情報提供

- (1) 「障サ協通信」の発行

7 表彰の実施

- (1) 山口県障害福祉サービス協議会会長表彰の実施

8 関係機関との連携

- (1) 全国セルフ協、中国・四国社会就労センター協議会
- (2) 山口県、山口県社協、山口県社会就労事業振興センター
山口県知的障害者福祉協会等

収支予算

【 収 入 の 部 】						単位：千円
科 目		予 算 額	前 年 度 当初予算額	増 減	摘 要	
項	目					
1 会 費		5,328	5,071	257		
	1 県 会 費	4,450	4,200	250	200事業	
	2 全国セルフ協会費	878	871	7	17事業所・施設	
2 補 助 金		160	160	0		
	1 県 補 助 金	0	0	0		
	2 全国セルフ協等助成金	160	160	0	全国社会就労センター助成金 100 中国四国社会就労センター助成金 60	
	3 共 同 募 金 配 分 金	0	0	0		
3 事 業 収 入		900	930	△ 30		
	1 参 加 費	900	930	△ 30	テーマ別研修① 210 会員3,000×40人・非会員6,000×15人 テーマ別研修② 210 会員3,000×40人・非会員6,000×15人 テーマ別研修③ 210 会員3,000×50人・非会員6,000×10人 管理者研修 270 会員3,000×50人・非会員6,000×20人	
4 寄 付 金		0	0	0		
	1 寄 付 金	0	0	0		
5 雑 収 入		1	1	0		
	1 雑 収 入	1	1	0	預金利息	
当期収入合計(A)		6,389	6,162	227		
前年度繰越金収入		1,357	931	426		
収入合計(B)		7,746	7,093	653		

【 支 出 の 部 】						単位：千円
科 目		予 算 額	前 年 度 当初予算額	増 減	摘 要	
項	目					
1 運 営 費		1,300	824	476		
	1 会 議 費	720	260	460	会長・副会長会議、理事会、監査、総会 研修委員会、広報委員会 会場代・旅費	
	2 事 務 費	580	564	16		
2 事 業 費		1,040	980	60		
	1 研 修 費	850	810	40	テーマ別研修① 200 テーマ別研修② 200 テーマ別研修③ 200 管理者研修 250	
	2 調査広報費	50	50	0	障サ協通信等	
	3 福祉増進費	140	120	20	会長表彰賞状、記念品等	
3 負 担 金		3,773	3,769	4		
	1 負 担 金	3,773	3,769	4	山口県障害者スポーツ協会会費 5 第69回山口県総合社会福祉大会共催金 20 山口県社協団体費 15 山口県社協負担金 2,855 全国社会就労センター協議会会費 878 (17事業所・施設)	
4 予 備 費		10	10	0		
	1 予 備 費	10	10	0		
当期支出合計(C)		6,123	5,583	540		
当期収支差額(A)-(C)		266	579	△ 313		
次期繰越収支差額(B)-(C)		1,623	1,510	113		
支出合計		7,746	7,093	653		